

【長崎空港】概要

長崎空港は世界で初めての本格的海上空港として、大村湾に浮かぶ小島(箕島)を造成し、海面の一部を埋め立てて建設されました。昭和50年5月に供用開始され、現在では東京・大阪方面をはじめ、九州一円から沖縄まで、国内便のほとんどがジェット化されました。昭和54年には国際空港機能としての、CIQ(税関、出入国、検疫)指定空港となり、同年9月には中国定期便(上海、北京)が、更に昭和63年12月には韓国定期便(ソウル)が就航しました。また、国内三大都市圏ほか、神戸、沖縄などの主要空港間及び県内の壱岐、対馬、五島などを結ぶ離島便も就航しています。

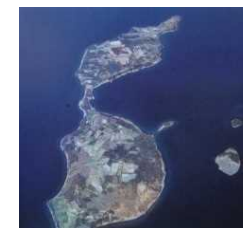
長崎空港は「ハウステンボス」や長崎市内への観光客やビジネス客で賑わっています。また、九州の空港で唯一FAZ(空港や港湾を通じて輸入を促進するための施設の整備や事業活動を集積しようという地域)に指定されており、国際航空貨物が集積する国際物流拠点として期待されています。



【長崎空港】歴史

- 大正12年 大村海軍航空隊飛行場として開設
- 昭和30年 旧軍施設を使用し、「大村空港」として発足
- 昭和34年 空港ターミナルビル完成、定期便就航
- 昭和35年 第2種空港として供用開始(旧A滑走路1, 200m)
- 昭和48年 第四港湾建設局長崎港工事事務所大村空港分室を開設
- 空港土木施設工事に着工
- 昭和50年 名称を「長崎空港」へ改名
- 滑走路2, 500m(旧B滑走路)供用開始
- 昭和53年 滑走路3, 000m工事に着工
- 昭和54年 「税関空港」「動物検疫飛行場」「植物防疫飛行場」「出入国港」指定
- 長崎⇄中国間定期便の就航
- 昭和55年 滑走路3, 000m(旧B滑走路)供用開始
- 昭和57年 ターミナルビル増築工事(国際線)完了
- 昭和60年 長崎空港ターミナル地域用地造成工事に着工
- 平成 3年 長崎空港ターミナル地域用地造成工事を完了
- 平成 5年 地域輸入促進計画(FAZ)に指定
- 平成 6年 長崎国際航空貨物ターミナル供用開始
- 平成20年 長崎空港旅客ターミナルビルリニューアルオープン
- 平成22年 スカイマーク 長崎⇄東京(神戸経由)運航開始
- 平成23年 A滑走路供用廃止(防衛省へ移管)
- 平成24年 LCC(ピーチ・アビエーション) 長崎⇄大阪(関西)運航開始
- 平成28年 長崎空港利用者数が一億人を突破

着工前



1973
S48.1



1973
S48.8



1973
S48.11



1974
S49.12



1975
S55.4



現在



【長崎空港】定期便

定期便就航状況 (H30.7)

	往復/日
東京	1 4 [17]
成田	1 (9月~)
伊丹	7
関西	1
神戸	3
中部	2
那覇	1
福江	3
壱岐	2
対馬	4~5
上海	2/週
ソウル	3/週
合計	38~41

ジェットスター
A320-200 180席
H30年9月~



成田 1

全日空
B777-200 405席



羽田 4

日本航空
B767-300 199席



羽田 6

ソラシドエア
B737-800 174席



羽田 4

スカイマーク
B737-800 177席



神戸 3

神戸經由
羽田まで



【長崎空港】利用状況

